

ゴールデンウィークも終わり、初夏の気持ちのいい毎日が続いていますね。今月は中世イギリスを生きた少女の物語をご紹介します。

『アリスの見習い物語』

カレン・クシュマン 著 柳井 薫 訳 あすなろ書房 1997年

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆★ 小高学年★★★ 中学生★★☆  
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

親もおらず、家族もいない、気がついたらたった一人でなんとか生きてきた少女。年齢もわからず、名前もありません。そんな少女は、ある日たどりついた村で産婆のジェーンの手伝いをさせてもらえることになります。村では「クソムシ」や「ガキ」の意味の「ブラッド」と呼ばれ、バカにされ、なんとか毎日を食べて寝ることだけに一生懸命だった少女ですが、ジェーンの使いで町に行ったときに呼び間違えられたことをきっかけに、自分に「アリス」という名前をつけ、少しずつ自分らしく生きていく道を見つける物語です。

<子どもに手渡すときのポイント>

作者は大学の博物学科で教壇に立った専門性を活かし、中世ヨーロッパの暮らしを事に生き生きと描いています。物語自体は淡白に感じるかもしれませんが、そのドライな描き方が物語を無意味に悲しいものにせず、小学生でも理解できる内容にしています。アリスの悲惨な境遇は始め悲しく感じますが、ジェーンを含め登場人物達が人間らしく一生懸命生きる姿や、アリスが成長していく姿が私たちに希望を感じさせてくれる物語です。最初だけ読んで「面白くない！」と投げ出してしまう子ども多いと思いますが、我慢してもう少しよみ続けることを薦めてみてください。

アメリカでその年の優れた児童文学が受賞するニューベリー賞受賞作です。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。